

令和元年度
盛岡情報ビジネス専門学校
自己点検・評価委員会結果報告書

令和2年3月

令和元年度自己点検・評価結果報告について

ここに学校法人龍澤学館盛岡情報ビジネス専門学校の自己点検・評価結果を公表致します。

令和2年3月

学校法人龍澤学館
理事長 龍澤 正美

1. 学校の教育目標

本校の教育理念である「社会の発展に貢献すべく、現代社会や産業界が求める人材の育成を行うことを目的とする。そのため、資格取得のみならず、社会的常識と教養を備え、明るく健康的で建設的な考え方をもち、社会人として求められる『主体性』『課題解決力』『実践力』を備えた『気づき、挑戦し続ける人材』の育成に努める」に基づき、学生から社会人への移行がスムーズに行われるよう、様々な学習環境を提供する。

2. H31(R1)年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- ・企業連携や地域連携活動でより多くの外部との接点をもち、学生に様々な学習の機会を創出する。
- ・高度資格への合格、全国競技会・コンテストへの入賞等ならびにキャリア教育を通して、高いスキルと豊かな人間性を兼ね備えた人材を育成し、上場企業をはじめとする優良企業への就職につなげる。
- ・学生募集において、本校の教育活動やその成果が正しく伝わるような情報発信に努める。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

※適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1

(1) 教育理念・目標

	評価項目	自己点検・評価結果※
1	学校の理念・目的・人材育成像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4
2	学校における職業教育の特色は明確か	4
3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
4	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4
5	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4
評価理由と改善策	学校の理念・目標・人材育成像等については、明文化して学校HPや学生の手引きへの掲載ならびに校内掲示等を行い、いつでも確認できるように工夫している。また、学校案内や募集要項にも掲載して、高校生や保護者、高校教員等広く一般にも発信するよう努めている。	

(2) 学校運営

	評価項目	自己点検・評価結果※
1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
3	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
4	人事、給与に関する規定等は整備されているか	3
5	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3
6	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
7	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4
8	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3
評価理由と改善策	教育目標、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、成績評価の方法と基準、シラバスとシラバス作成のガイドライン、学校運営・経営情報等の情報についてHPへの掲載が完了した。国の修学支援新制度の機関要件を満たしている学校として認定を受け、令和2年度から当該制度の利用が可能となっている。	

(3) 教育活動

	評価項目	自己点検・ 評価結果※
1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
2	教育理念、育成人材像や業界ニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
5	関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
6	関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
7	授業評価の実施・評価体制はあるか	4
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
9	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	3
13	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4
評価理由と改善策	<p>教員が最先端技術や学生指導法を習得できるよう積極的に外部研修に参加する機会を設けている。また、研修参加後には校内でのフィードバック研修を実施し、広く共有するよう努めている。</p> <p>また、2020年度からは全クラスで実施する共通カリキュラムの導入が決定しており、そのための勉強会も数回に渡って実施している。</p>	

(4) 学修成果

	評価項目	自己点検・ 評価結果※
1	就職率の向上が図られているか	3
2	資格取得率の向上が図られているか	3
3	退学率の低減が図られているか	3
4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3
評価理由と改善策	<p>資格取得については、IT系高度資格の対策として放課後ゼミの開講など新しい取り組みを開始している。</p> <p>就職率の向上や退学率の低減については、長期的な視点での丁寧なアドバイスがより必要になってきていることを実感しており、個別指導や保護者との連携強化に努めている。</p>	

(5) 学生支援

	評価項目	自己点検・ 評価結果※
1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
2	学生相談に関する体制は整備されているか	4
3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
6	学生の生活環境への支援は行われているか	4
7	保護者と適切に連携しているか	4
8	卒業生への支援体制はあるか	3
9	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
10	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4
評価理由と改善策	卒業生に対しては、再就職支援に加えて技術研修等の実施を検討している。	

(6) 教育環境

	評価項目	自己点検・ 評価結果※
1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
2	学内外の実習施設、インターンシップ、異文化理解等について十分な教育体制を整備しているか	4
3	防災に対する体制は整備されているか	3
評価理由と改善策	施設・設備や防災体制については、常に社会情勢や未来を見据えながら継続的に必要な環境を整備・更新していく。	

(7) 学生の受入れ募集

	評価項目	自己点検・ 評価結果※
1	学生募集活動は、適正に行われているか	4
2	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
3	学納金は妥当なものとなっているか	4
評価理由と改善策	募集活動に際しては、教育理念や人材育成像、アドミッションポリシーについて理解・共感いただいた上で入学いただけるよう努めている。特に、教育成果についてはその結果に至るまでの経過や活動の目的などを伝えることに重点を置き、より正確に伝えるよう工夫している。	

(8) 財務

	評価項目	自己点検・ 評価結果※
1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
3	財務について会計監査が適正に行われているか	4
4	財務情報公開の体制整備はできているか	4
評価理由と改善策	法人本部で財務について適正に管理しており、財務情報についてはホームページで公開している。	

(9) 法令等の遵守

	評価項目	自己点検・評価結果※
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3
3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
4	自己評価結果を公開しているか	4
評価理由と改善策	個人情報の管理については、教職員のデータアクセスについて適正に管理している。今後も、定期的に教職員への研修を行い、個人情報保護の重要性を十分に理解させる取り組みを行っていく。	

(10) 社会貢献・地域貢献

	評価項目	自己点検・評価結果※
1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
3	地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4
評価理由と改善策	教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献については、企業と連携したプログラミングコンテストやインターネット安全教室の開催や、地元企業のWeb制作や業務用アプリケーションの開発、地産商品のラベル・ポスターデザインなど様々な取り組みを行っている。 また、学生のボランティア活動の支援も本校独自またはグループ校と連携して様々な内容で行っている。	

(11) 国際交流

	評価項目	自己点検・評価結果※
1	留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	3
2	留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4
3	留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4
4	学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3
評価理由と改善策	留学生の受け入れに関する戦略や国内外で評価させる取組みについては、引き続き、法人の担当部門と連携を図りながら留学生が安心して学べる環境の提供に努めていく。	

4. H31(R1)年度の総合的な自己点検評価結果と今後の目標

H31(R1)年度も、活発な地域連携活動や企業連携学習が行われ、専門分野大手企業への就職やコンテストでの上位入賞、情報処理国家資格取得者の多数輩出など、高い実績を収めることができた。一方で、価値基準・判断基準がまだ確立されていない学生が増えており、広い視野で長期的な視点をもって考え判断していける土台作りを強化する必要性が高まっている。様々な場面で判断・決断することを経験できるよう、多くの機会をつくっていききたい。

また、年度末には新型コロナウイルス感染症の全国的な広がりを受け、いくつかの学校行事の中止が決定している。もし、この先感染が拡大してくれば休校措置やオンライン授業等を検討していかなければならないことが想定される。十分な感染防止対策を取りながら、例年と同じ活動ができない可能性がある中でも教育の成果を上げていくための対策の検討を急ぎたい。

令和元年度
盛岡情報ビジネス専門学校
学校関係者評価委員会結果報告書

令和2年7月6日

学校法人龍澤学館

理事長 龍澤 正美

令和元年度学校関係者評価 報告

学校法人龍澤学館 盛岡情報ビジネス&デザイン専門学校（令和2年4月1日より盛岡情報ビジネス専門学校から校名変更）では、本校規定に基づき、学校関係者評価委員会を7月1日に実施いたしました。以下に、その内容についてご報告いたします。

今後は、各評価委員からの意見は指導等を真摯に受け止め、より良い教育より良い学校運営を目指し、教職員一同努力してまいります。

引き続き、一層のご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

1. 学校関係者評価委員名簿

氏名	所属	役職
飯岡 一臣	株式会社IBCソフトアルファ	システム本部システム三部部長
村上 浩紀	株式会社北日本銀行	人事部長
内村 豊	有限会社クリップ	代表取締役社長
菊池 那紀	卒業生	
小堀内 志	卒業生	

《事務局》

松島 理香子	盛岡情報ビジネス&デザイン専門学校	副校長
大矢 由美子	同校	事務局

2. 開催日時

令和2年7月1日（水）14:45～15:45

3. 次第

- (1) 開会挨拶
- (2) 学校関係者評価委員会の趣旨・目的の確認
- (3) 令和元年度自己点検・評価結果報告ならびに議論
- (4) 閉会

3. 議論内容

盛岡情報ビジネス専門学校教育理念・目標と H31 (R1) 年度に定めた重点目標と計画、活動内容等について事務局より報告後、「専修学校における学校評価ガイドライン」を踏まえて作成された評価項目による自己点検・評価の結果に基づき、各項目の達成状況や取り組み状況、改善策等について議論を行った。

(1) 教育理念・目標

理念や目標の周知は適正に進んでいることを確認したうえで、近年の若者の語彙力の低下、視野の狭さ、受動的スタンスに関しては企業でも課題として実感しているところであり、学生時代から取り組むことの必要性は増すばかりであることから、引き続き基礎教養力の向上に向けた取り組みを強化していくことを確認した。

(2) 学校運営

昨年の委員会開催時でもHPでの情報公開の準備が整っていることを確認していたが、その後、修学支援新制度の対象校の認定に至ったことが報告された。引き続き適正に運営していくことを確認した。

(3) 教育活動

令和2年度導入に向けて準備を進めてきた全科共通授業が4月から開始されていることを確認した。今後、数年かけながら効果の検証がなされていく予定。

(4) 学修成果

様々な成果についてさらに向上させていくうえでは学生の意思決定の過程を丁寧に支援することが重要であることを確認した。そのためにも教職員が学生にとって常に相談しやすい存在であることが求められる。また、世の中では働き方改革が進み、限られた時間内でこれまで同様の成果を出すことが求められるという難しさが生まれてきている。学生時代のうちに課題の優先順位を決めて順序だてて取り組むことや、場合によっては何かを手放すという取捨選択の判断ができる力をつけていくことが求められる。

(5) 学生支援

メンタルヘルスや発達障害等に関わるサポートについて、現在の取り組み内容やその成果について評価をいただくとともに、引き続き保護者や外部機関と連携して取り組んでいくことを確認した。また、卒業生との連携強化が課題として挙げられた。

(6) 教育環境

インターンシップについては、今は社会的な状況にも十分な配慮が必要となっているが、原則は今後も引き続き積極的に取り組んでいくことを確認した。

(7) 学生の受け入れ募集

学生募集活動については引き続き真摯に教育活動に取り組み、その成果を広く発信していくことで選ばれる学校であり続けることを確認した。また、専門学校は2年であるというイメージがまだまだ強い中ではあるが、プログラム開発や作品制作の時間を多く確保できる3・4年課程の特長も広く周知していくことを確認した。

(8) 財務

既に適正に管理運営できていることから、特に意見は出なかった。

(9) 法令等の遵守

定期的な研修を実施するなど努めていることから、特に意見は出なかった。

(10) 社会貢献・地域貢献

活発な地域貢献活動が継続的に行われていることへの評価に加え、委員の一人から、連携先から高評価が得られていることについて具体的な声が共有された。今は社会的な状況からボランティア活動等に関して慎重を期する必要性が生じているが、新たな形での実施も検討していくことを確認した。

(11) 国際交流

適正に運営されていることから、特に意見は出なかった。

4. まとめ

今回も、教職員が一丸となって地域社会や企業等との連携を図りながら健全な学校運営を行い、社会のニーズに対応した人材の輩出や様々な実践経験を積める学習環境の提供に努めて取り組んでいることを確認できた。しかし、昨今の社会情勢の変化は、働き方はもとより生活様式そのものも変えていくことが分かっており、盛岡情報ビジネス&デザイン専門学校の教育にかかる期待はますます大きくなると考えられる。社会の変化に対応した教育のより一層の充実と、家庭・保護者との連携強化を確認して閉会とした。